

農業後継者育成基金事業

平成30年度農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）

事業主体名 鹿児島県立鹿屋農業高等学校

1 目的

農業後継者確保のため啓発活動及び視察研修を主に行う。1年次は、県立農業大学校、県農業開発総合センター等に年2回の視察研修を行う。2年次は、農家委託実習を7泊8日で実施し、体験的に農業の経営について学習をする。3年次は、直接就農及び農業大学校進学者で先進地農家を中心とした視察研修を実施する。農業に対して興味・関心を深め適格者の確保を目指すものである。なお、近年の農業法人増加と非農家生徒の進路選択に対応するため、平成29年度から2年次に農業法人説明会・視察研修を新規で組み込み、今年度は事業の定着を図った。

2 実施状況（主要なものを選定して記載してください）

(1) 1年次視察研修の実施

本県における農業の実態や農政の現状を学習し、将来新規就農者及び地域産業の担い手を育成するために、視察研修を実施した。責善寮生（自営学科1年生）を対象に、鹿児島県立農業大学校や地域農家、県農業総合開発センター等を見学した。研修を通して農業大学校進学希望者の目標がより具体化し、また地域農業の特徴を理解し農業への興味関心を高める事が出来た。



視察研修：ロボットトラクタ実演

(2) 2年次農業法人説明会・視察研修の実施

自営者養成学科生徒の後継者割合は、耕種関係学科20～30%、畜産動物学科70%であり、非農家の生徒も多い。そこで県農業法人協会の協力のもと、「農業法人への就職」という進路選択について研修した。研修を通して農業法人についての理解を深め、農畜産業進路選択の幅を広げると同時に、地域農畜産業の担い手としての将来の方向付けを考える機会となった。



農業法人研修：優良農業法人視察

(3) 2年次農家委託実習の実施

総合実習の一環で、専門教科の実験・実習などの学習成果を基礎にして、地域の畜産・園芸農家で農作業や農家生活を体験することにより、農業に関する基礎や専門的な技術及び経営観について学習を行なった。この地域連携事業（後継者育成事業）を通して、就農意欲の向上が認められ、四年制大学や農業大学校進学など就農への具体的進路選択の一助となった。



農家委託実習：収穫作業

(4) 3年次就農指向者研修・営農の門出を励ます会の実施

農業大学校進学者や直接就農者等の就農志向者を対象に県内の優良農家及び関連施設等の視察研修を実施した。就農目的が明確な生徒のため、経営内容や機械・設備、販売・流通に関するより具体的知見を得ることが出来たようだ。また、営農の門出を励ます会を実施し、就農に向けての意識高揚を図ることができた。今年度の就農指向者は、自営者養成学科の3学科合計で36名だった。



就農指向者研修：JA食肉かごしま

3 今後の課題、取り組み

平成31年度入学選抜試験出願状況は、耕種関係学科（農業科0.62・生物工学科0.28）、畜産動物学科0.65であり、農業経営者育成学科（耕種・畜産）について更に魅力ある教育内容の検討が課題である。また、平成29年度から新規で開始した「大隅地区農業法人研修」については、継続して定着を図り、就農教育プログラムにしっかり組み込むと同時に、該当学年の生徒の進路選択の分析も進めたい。